研究テーマ:ESDについての研究　－国際理解教育テキスト作成を目標として－	
研究代表者(職氏名):教授　富田和広	連絡先 (E-mail 等):tomita@pu-hirosima.ac.jp
共同研究者(職氏名):教授　伊東和久　　講師　原理　　准教授　藤井浩樹	

ESDについての研究
－国際理解教育テキスト作成を目標として－

研究の目的と内容

本研究は、国際理解教育を中心とした人材育成プログラムのテキスト作成を前提として、ESD（Education for Sustainable Development）の方法論に従い、これまでの授業プログラムを発展させることを目的としている。

「入口から出口まで学生に満足感を与えて送り出す」ためには、明確な教育目標と、それが実感できるカリキュラムと授業が不可欠であるが、ESDが目指すものは本学、特に国際文化学科のそれと同じ方向性を持ち、本学科における教育内容の改善に役立つと考えられる。そこで、これまで実践してきた模擬国連や開発教育アクティビティを用いた教育をESDの中に位置づけ、これに基づく授業改善活動の促進を図ると同時に、国際理解教育のテキスト作成を目指した。（2年計画の1年目）

研究結果の要約

ESDの観点から選択した模擬国連を含む複数のアクティビティを複数の授業に導入し、平成 20 年2月には安全保障理事会と総会を擁する第3回模擬国連広島大会を開催した。また、広島県主催「国際貢献のための人材育成講座」の本学実施分（3回）の内容をESDの観点から計画・実施した。

次年度向けに、本事業に参加している教員の授業全てをESD観点から身に付く知識・技能を整理し、学生が履修の際に参考にする資料および履修モデルを作成した。

研究成果

（直接効果）　授業で実施した様々なアクティビティは、どれも効果が高いことが分かった（模擬国連についてのこれまでのアンケート調査結果を次頁の図にまとめた）。模擬国連広島大会と「国際貢献のための人材育成講座」には本学学生と社会人が参加したが、参加学生への聞き取りからこのような実施形態が効果的であることが分かった。

（波及的効果）　平成 19 年度も、学生が自主的にユニタール主催のラウンドテーブルに参加しており、参加義務のない模擬国連広島大会や模擬国連全国大会などへも学生の自主的な参加があった。本学開催分を本事業のメンバー全員で担当した広島県「国際貢献のための人材育成講座」にも学生の自主的な参加があり、学生について一定の波及効果があることが認められた。

また、第 3 回模擬国連広島大会へは、県立高校教諭や一般社会人の参加もあり、学外への波及も確認された。

導入したアクティビティ等（一部）と結果

◆　**貿易ゲーム**

「貿易」を中心に、世界経済の動きを擬似体験することによって、そこに存在するさまざまな問題について学び、その解決の道について考えることを目的としたシミュレーション・ゲーム。今年度は、外国語での議論への抵抗をなくすために交渉時に英語を用いるという試みを行ったが、学生には好評であった。また、模擬国際会議を実施するバージョンと商社を介在するバージョンを試行した。模擬国際会議バージョンは、模擬国連へとスムースにつなげる意図があったが、その効果はあまり見られなかった。商社バージョンは、商社を担当する学生は非常に勉強になるが、他の学生が手持ちぶさたになる傾向があった。

◆　**模擬国連**

参加者一人一人が世界各国の大使となって国連会議を再現し、国際問題の難しさを理解すると共に、問題の解決策を探ろうとするディベート。授業では模擬安全保障理事会と模擬国連総会を実施した。模擬総会では、議題決定から議題概説書作成のプロセスを全て学生が行ったが、それが議論への積極性が高まる結果につながった。一方、議題や会議そのものに対するリアリティを高めるための方法が依然として課題として残った。

◆　**仮想世界ゲーム**

参加者は4つの地域に分かれ、企業家、政治家、農園主、労働者になり、環境汚染、暴動などを乗り越えて 15 年間生き抜くことを目指すシミュレーション・ゲーム。国際社会を疑似体験する。ルールは若干複雑で時間もかかる（通常4～5コマ）が、貿易ゲームに比べると南北問題をよりリアルに体感できることが分かった。

◆　**環境教育プログラム作成**

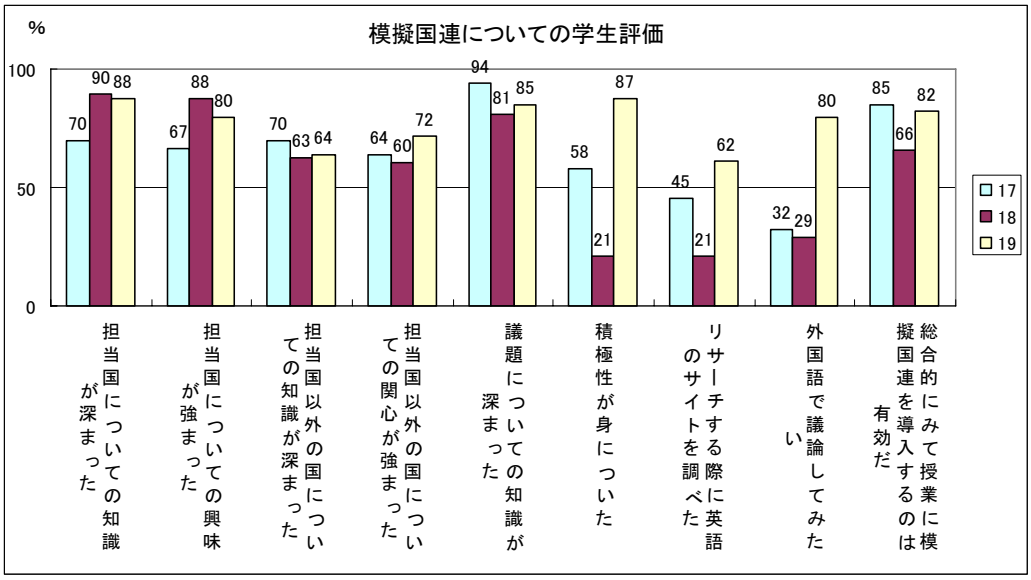
グループでテーマを決めて、実際に環境教育のプログラムを作成して、発表させる。

◆　ユネスコESD教材「つながりを探る」

ユネスコが作成したESDテキストを用いて、今日の世界で人類が直面している主要な社会、経済、環境問題の相互関係を探究させる。

履修モデル

ここでいう履修モデルは従来型のものではない。出口は職種や業種ではなく、ESDにおいて身につけたい技能と知識とし、それらを身につけるためにはどの授業をとればよいかを示した履修ガイドのようなものである。平成20年度用に作成した（履修モデルについては下の表参照）。



「当てはまる」から「全く当てはまらない」までの5段階で回答してもらった（グラフの値は「当てはまる」と「やや当てはまる」を合計したもの）。

ESD計画参加授業

以下の授業はESDが目標としている人材を育成するという観点からデザインされています。これらをセットで履修することでその効果はより高まります。
履修の際には以下の表の「身につく力」や「身につく知識」の欄を参考にしてください。各アクティビティの紹介はWEBで！　http://hmun.nomaki.jp/

科目名	配当学年		担当教員	技能							知識*1					アクティビティ										授業の特徴
				合意形成	議論	スピーチ	交渉	外国語運用	情報検索	調査・分析	貧困と飢餓	教育の普及	環境の持続可能性	global partnership *2	人権・女性	お弁当屋さんゲーム	模擬国連	環境教育プログラム作成	ユネスコESD教材	仮想世界ゲーム	インプロゲーム	異文化適応ゲーム	キープクール	KJ法	貿易ゲーム	
国際経済論	1	前	伊東	○	○	○	○		○	○	○		○	○		○										
基礎ゼミ2（伊東クラス）	1	後	伊東	○	○	○	○		○	○	○		△	○											○	
共生社会論	1	後	富田*3	△	△	△	△										△									200人で議論
政治学（英語）	1・2	後	原	△	○	○	○	○	△																	英語だけの授業
教育学	1・2	後	藤井浩		△	○			○	○		○	○	○				○						○		環境教育プログラム作成
国際協力論	2	前	藤井浩						△	△	△	○	○	○					○							
東アジア地域論	2	前	伊東		○					○																
東アジア社会文化論	2	前	富田	△			○				○		△	○			△			○		○			△	
国際政治論特論	2・3・4	前	原		△	○		○	△	○																論文執筆と発表
国際政治論	2	後	原		△	○		△	○	△																論文執筆と発表
比較社会論	2	後	富田	○	○	○	○				△	△	△	○	△		○								△	
東アジア地域論特論	2・3・4	後	伊東		○	○			○	○	○	○	○	○												
東アジア社会文化論特論	2・3・4	後	富田		○	○									○											ディベートづくし
東アジア地域論基礎演習	3	前	伊東		○					○				○												
国際政治論基礎演習	3	前	原		○	○		○	○	△																情報検索方法について学ぶ
東アジア社会文化論基礎演習	3	前	富田		○	○				○														○		企画・調査能力向上・パワポ習得
東アジア地域論演習	3	後	伊東		○					○				○												
東アジア社会文化論演習	3	後	富田		○	○				○										○	○					発表と議論
国際政治論演習	3	後	原	△	○	○	○	△	○	○																発表とグループディスカッション

○授業全体に当てはまる　△当てはまる授業もある又はその可能性がある

*1 身に付く知識はテーマをあげています。これは国連が設定したミレニアム開発目標のジャンルに関連しているものだけを取り上げています。当然、授業ではこれ以外のテーマについての知識も身につきます。各授業のコースカタログを参考にしてください。
*2 global partnership（グローバル・パートナーシップ）：世界的問題解決のための提携や協力関係のこと
*3 オムニバス。富田は最後の3回のみ担当。
*4 ここにあげていない授業については、コースカタログを参考にしてください